

# 平成28年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	「横田切れ」120年事業(シンポジウム)	事業経緯	新規	実施体制	協賛	担当所属	長岡支所
事業名 (大項目)	地域の利用・整備・保全に関する広報事業	分類名 (中項目)	広報・啓発活動支援事業		事業区分	キャンペーン、〇〇月間	

## 1. 事業目的

平成28年は、越後平野に未曾有の被害をもたらした明治29年(1896)の「横田切れ」と呼ばれる大水害から120年、信濃川中・下流域に甚大な被害をもたらした平成23年(2011)の新潟・福島豪雨水害から5年の節目である。また、近年は気候変動により豪雨が局地化・集中化して災害が激甚化し、新たなステージに対応した防災・減災のあり方が求められている。  
これらを踏まえ、過去の水害の歴史・経験を振り返り、風化させることなく越後平野の水害リスクを認識・共有し、安全・安心について地域が一体となって考える機会とする。

## 4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

地域の歴史に刻まれる大水害の節目の年にあたり、年間を通してさまざまなメモリアル事業を展開するなか、基幹事業として本シンポジウムを開催した。  
開催趣旨を踏まえ、幅広い年代の参画を企図したプログラムで構成し、夏休み中の休日という日程設定もあって地元住民の参加も多く得た。東日本大震災を機に、過去の災害の記憶・記録を伝えていくこと、そしてその学びを地域の防災・減災力の向上に活かしていくことの大切さが広く認識されたが、本事業によって災害を「伝える」「学ぶ」ことの重要性があらためて理解・共有される機会となった。

## 2. 事業実施体制

共催: 国土交通省信濃川河川事務所・信濃川下流河川事務所、燕市  
協賛: (一社)北陸地域づくり協会  
後援: 信濃川・中ノ口川治水事業促進期成同盟会、信濃川改修期成同盟会、大河津分水改修促進期成同盟会、新潟県、新潟県教育委員会、農林水産省北陸農政局、新潟県土地改良事業団体連合会及び各土地改良区、建設関係諸団体、地元・全国紙各社、テレビ・ラジオ局各社 など

## 3. 事業実施概要

日時: 平成28年8月28日(日) 13:15~16:45

会場: 燕市文化会館

プログラム:

- ▶ アトラクション「ヨミワケ太鼓」: 燕市立島上小学校5,6年生
  - ▶ 防災教育「学び」レポート: 地元小中高校 3校
  - ▶ 講演『温故知新一次の災害への備えを考える』  
講師: 田村 圭子(新潟大学教授)
  - ▶ パネルディスカッション『災害を「伝える」「学ぶ」地域づくり』  
パネリスト: 五十嵐 一浩(魚沼市立湯之谷中学校長)  
岸 和義(中越市民防災安全士会会長)  
篠田 昭(新潟市長)  
鈴木 力(燕市長)  
高橋 直子(新潟日報社論説編集委員)
- コーディネーター: 犬飼 直之(長岡技術科学大学助教)

参加者: 約200人



アトラクション



「学び」レポート



講演



パネルディスカッション